

詭友忘るる乃多冷を陰浦に  
夫砂とて思ふ船の住者も亦  
くく白く波を遠くく月毎の  
鮎とらうとぬ

縁陰堂

舟名ハお復殿と云れぬ如柳

液雨はとれ控ふとゆみ仲復 沾古

時ぬきや刀根ハ流波は露調

来也兼も温化と云る内無 陰例

うい女乃實ふ度と云く無何ぬ 文里

柄は此の我とぬとらうと一曉

鐵棒を水道底にたるとは 指水

時暗りく如く更次すくとは 掃尾

判有乃智道くは 霰雨ハ 岡雪

翅去るぬとて長宗以亭は蓋 貞佐

亭保中五成初

川

河

舟

下

出

舟

舟

舟

夜

船

其川

